

小論文

問題

下記の文章は、「ごっこ遊びとことばの発達」について書かれた文章である。これを読んで、筆者はなぜ「子どもの時の遊びは知性の発達に非常に重要なのである」(下線部)と述べているのか、ごっこ遊びの具体例を挙げながら説明せよ。また、そのようなごっこ遊びを支えるよりよい環境とはどのようなものか、あなたの考えを述べよ。

解答は、解答用紙に1,200字以内(句読点を含む)で記述すること。

遊びの効用はいろいろある。遊びは、人をリフレッシュさせ、人との社会的な関係を築いていくのに役立つ。運動をとまなう遊びは運動能力の発達にも重要だ。しかし、それ以上に、子どもの時の遊びは知性の発達に非常に重要なのである。

知性の発達の根幹は、象徴する能力である。人間以外の動物と比べて人間が格段に違っているのは、この「象徴能力」であると言ってもよいだろう。一般的には「象徴」ということばは「ハトは平和の象徴」というように使われる。ここでの「象徴」は、目に見えない抽象的な概念をある具体物に代表させる機能という意味で使われている。しかし、本来「象徴」というのはその逆の方向、つまり具体から情報のエッセンスだけを取り出し抽象化したものなのである。私たちが目の前にしているモノや出来事は、膨大な情報を含んでいる。同じモノでも光の当たり方によって目に入ってくる情報は違う。膨大な情報を必要最小限のエッセンスに圧縮し、抽象化したものが象徴(シンボル)である。

私たちは絵を描くとき、程度の差はあれ、すべて自分で観た世界をシンボル化している。どんなに精密な具象画でも、目にした世界をある一定の光や環境のもとで切り取り、自分の解釈を加えて「心で観た世界」を描くのである。

言語は究極の象徴だ。ことばはモノや動作、出来事に対し、絞り込まれた特定の基準だけに注目してカテゴリーをつくる。つまり、言語は世界を多様な、しかし一貫した基準で切り取り、まとめ、象徴化し、さらに個々の象徴を関連づけてシステムをつくっているのである。世界の膨大な情報の中で不必要なものを捨象し、象徴にすることによって、私たちは一つの象徴を他の象徴と組み合わせ、新しい象徴、つまり「新しい知識」をつくることができるようになる。

子どもは自然と「ごっこ遊び」をする。ごっこ遊びの中で子どもは、モノの特徴に惑わされずにモノを象徴的に扱う能力を発達させていく。例えば、子どもが、コップがないのに何かをコップに見立てて(あるいはモノなしで)コップで飲む真似をしていたら、コップの色や形に関係なく、コップの機能を理解し、それを象徴化して「コップで飲むふり」をしていたということだ。子どもは遊びを通じて、ことばを学ぶために必要な世界の様々な様相を切り取り象徴化することを試していると言ってもよい。

実際、ごっこ遊びと言語の発達は連動して起こっている。最初は哺乳瓶の形をしたおもちゃがないと人形にミルクを飲ませることができなかったのが、少し大きくなると積み木などの機能が定まっていないモノで代用できるようになる。そのうち、モノがなくても「ふり」だけで人形にミルクをあげるができる。あるいは哺乳瓶とはまったく形も機能も違うものを哺乳瓶に見立てることができるようになる。このように、ことばと象徴能力は遊びを仲介にしていっしょに発達していくのである。